

HQR011-P05

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

新潟平野沖合海域に分布する沖積層の特徴

Characteristic of Holocene sediment off Niigata Plain based on high-resolution seismic profiles

井上 卓彦^{1*}, 天野 敦子¹, 村上文敏¹, 池原 研¹

Takahiko INOUE^{1*}, Atsuko Amano¹, Fumitoshi Murakami¹, Ken Ikehara¹

¹産総研 地質情報研究部門

¹GSJ, AIST

新潟平野は多数のボーリング調査が行われ、最も研究が進んでいる平野の一つである。その沖合の堆積物の分布や特徴を知ることが陸域-海域相互間の堆積作用を考察する上で非常に有用である。産業技術総合研究所は、2009年に音波探査を行い寺泊沖合から岩船沖合の水深100m以浅において約720kmの音波探査断面を得た。その解析結果にもとづき本海域の沖積層の堆積構造等の特徴について報告する。

調査に使用した音波探査装置は、ブーマー音源と高分解能マルチチャンネルストリーマーケーブルからなる。関谷分水から阿賀野川河口域間では音波散乱層の影響により堆積層からの反射がほとんど確認できないものの、その他の海域では深度60m~120mに明瞭な凹凸を伴う強い反射面が認められる。同時期に実施した海上ボーリング試料(天野ほか, 2010)との対比の結果、その反射面は最終氷期侵食面に相当し、その上位層は完新統と考えられる。完新統は内部の比較的強い水平な反射面によって二層に区分される。下位層の内部には比較的強い反射強度を持つ複数の平行な反射面が認められ、上位層内の反射面は反射強度が弱く、一部の断面において海側へのオフラップ構造が認められる。完新統相当層のこのような特徴は、本調査海域の全域で認められることから、その堆積環境の変化は地域的要因よりも海水準上昇などの地域全体に及ぶ要因を反映していると考えられる。今後ボーリング試料を含めた詳細な検討を行う予定である。

キーワード:完新統,新潟平野,海水準変動,高分解能音波探査

Keywords: Holocene, Niigata Plain, sea level change, high-resolution seismic profiles